

『紡ぐ』

2022.2.15 第36号
発行 教育相談室「あした塾」



(夜に雪が降り、冷えた朝の山はまるで珊瑚礁のよう)

新型コロナウイルス

オミクロン株を 軽く見ないで!



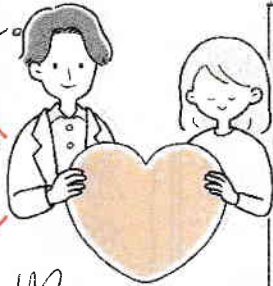
新型コロナウイルス株の猛威は止まりません。

しかし、「オミクロン株は重症化リスクが小さい」「症状はカゼに近いから『普通のカゼ』に終わったのではないかな」などの情報のある中、軽く考えている人も少なくありません。でも、ちょっと待ってください。最前線でお話

にあっている病院の先生方は「重症化しないわけではなく、流行が拡大すると高齢者や基礎疾患のある人など、重症化リスクのある人の感染が増えそうです。感染対策を続けることが大切だ」と指摘しています。

また、デルタ株と比べてオミクロン株は子どもでどんどん感染しています。オミクロン株の感染力は、当初のアルファ株の3倍、デルタ株の1.5倍とされています。(デルタ株の2〜5倍というデータもありです・東大など) しかも、オミクロン株は感染してから2日程度の短い期間で再び感染を広げていきます。ワクチンも不十分です。治療薬も開発途中です。まだまだ基本的な感染対策(マスク、手洗い、うがい、消毒、密を避けるなど)をしなくては生活をしていけません。

想像力を働かせてください



この新型コロナウイルス、いつ、どこで、どんな感染があるかわかりません。感染者が出るたびに「誰や、誰や」とか「何しとったや」とか病気になる人を非難したり、面白おかしく話したり、不確かな情報をSNSで流したりということば数多くあります。それはよくないと思います。想像してください。いつ、おなじく同じ状況におかれるかわかりませんから。

穴水町の風力発電

北陸中日、北国新聞とも2月5日付新聞で、穴水町(下巻川、大角間、桂井、越渡周辺と町前所定広域長井坂)で計画されている風力発電事業が廃止されたと報じました。

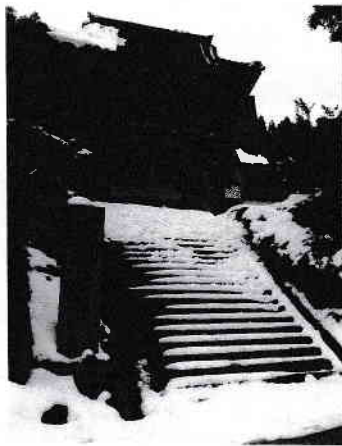


これは「住民の声も受け止め廃止を判断した」と(同紙)と語っているとあります。とはいえ、能登半島では、まだ12の風力発電事業が計画されているそうです。

穴水再発見

宇留地

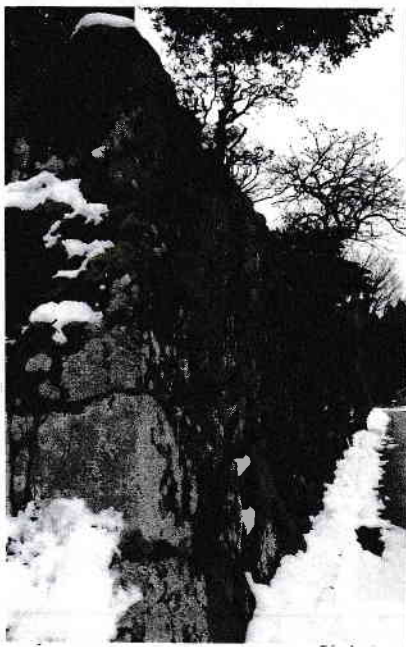
西福寺の石垣



宇留地、山王川に流れる三芳橋のたもとにある西福寺の石垣は、城の石積みをおもわせる立派なものです。昔、西福寺が河内の寺山から現在の地に移る前は、この地の豪族、茂右衛門の屋敷跡だと伝えられていて、それ以前は宇留地長氏の館跡であつたといふことだ。この石垣は文化13年(1816)に4年ばかりで完成したといわれていますが、現在の場所より後にあつたものを選びなおしたものとも伝えられています。茂右衛門は天知2年(1682)にキリシタンの密教で処刑され、それ以前の宇留地長氏も寛文5年(1665)に「浦野事件」で家断絶していつた。(以上、岡本伊佐夫編著「あけみず百物語」より抜粋)

さて、この西福寺の石垣は「二層に造られている」といふ文化財級の豪座なもので、15年前の能登半島地震で大きく崩れ、現在の石垣は修復されたもので、ご住職の話では、石垣は二層にはなっていないが、石垣としては普通のものだったといふことだ。

これはこの穴水の発見で、いろいろな言い伝えにはそれなりに根拠があつたのだと思ひます。なお、浦野事件は調べたいといふことです。



能登トキヲクラブ



能登トキヲクラブが正式に発足してから1か月余りになりました。2月1日現在で会員数は103名になりました。この能登の地に再びトキの舞い姿を見たいという壮大な計画を実現させるためにも、今後も多くの方の入会を期待します。

この会は働き始めたばかりですので、当面は理事ら名で協議しながら活動を進めていきます。

メンバー組織

会長	宮下源一郎
副会長	吉村扶佐司 出村敏和
会計	新田耕司
監事	吉村扶佐司 滝井元之
顧問	北村茂男
相談役	村本義雄

2月2日付北国新聞は、県議会が、岩本知事以外でのトキ放鳥を目指す事業に手を挙げる万全を明らかにしたと報じました。

トキクラブは5月に「トキについて学ぶセミナー」を羽咋市で開催する予定です。学校、自治体への御きかけも行います。詳細は別途。(能登トキヲクラブ事務局から)